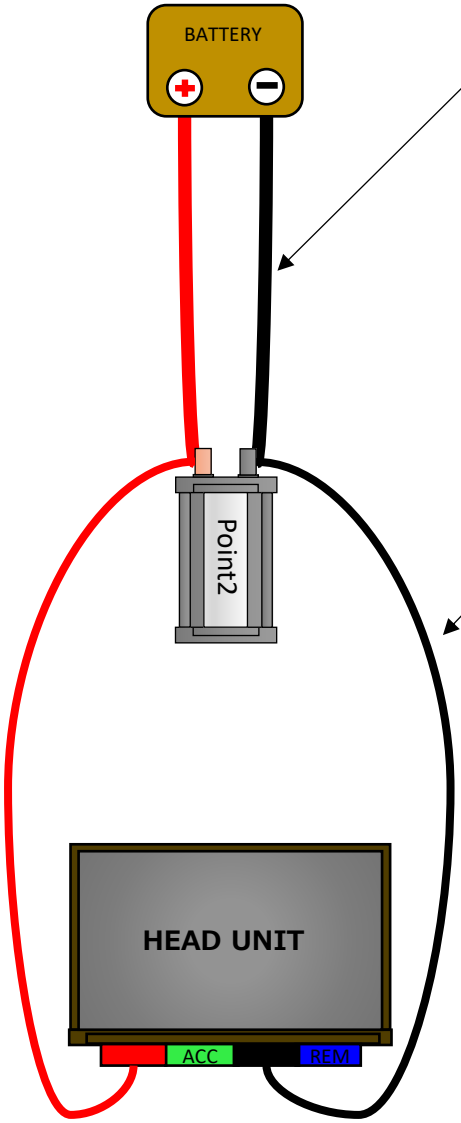
例１：BATTERY-Point２-HEAD UNIT　接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なケーブルの選び方とは？

①バッテリーからPoint2までは、ノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒8G等が理想です（例：AT-RX08）

キャパシタに早く電気をためるには？
⇒太いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル

②Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒14～16Gが理想です
（例：HQP-14zs Power cable）

Point2は220ｋHzまでの電気を流すことが可能です
機材に周波数帯域の高い電気を流すには？
⇒細いケーブル
機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

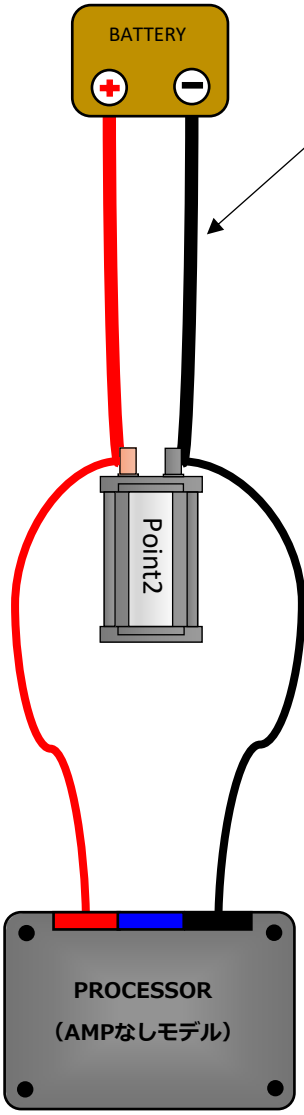
※HEAD UNITはAMPとは別に、バッテリーから直接電源を引くことをお勧めします
⇒ヒューズブロックで分配した場合、異なる発電周波数どうしで、電流が打ち消しあう
⇒機材が必要としている電流の周波数帯域は全て違う

MEMO

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。
※１６G等の細い線を束ねて電源ケーブルとするのは、キャパシタに電気を溜める能力が低くお勧めいたしません。

例２：BATTERY-Point２-PROCESSOR（AMPなし）接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なケーブルの選び方とは？

①バッテリーからPoint2までは、ノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒8G等が理想です（例：AT-RX08）

キャパシタに早く電気をためるには？
⇒太いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル

②Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒14~16Gが理想です
（例：HQP-14zs Power cable）

Point2は220ｋHzまでの電気を流すことが可能です
機材に周波数帯域の高い電気を流すには？
⇒細いケーブル
機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

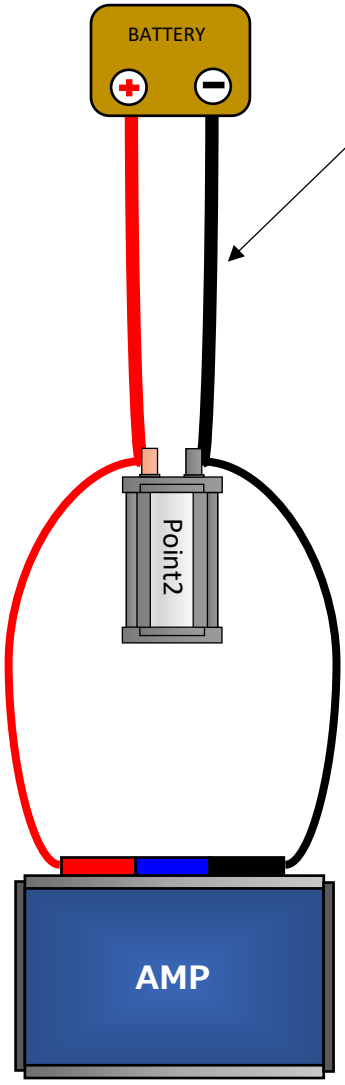
※PROCESSORはAMPとは別に、バッテリーから直接電源を引くことをお勧めします
⇒ヒューズブロックで分配した場合、異なる発電周波数どうしで、電流が打ち消しあう
⇒機材が必要としている電流の周波数帯域は全て違う

MEMO

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。
※１６G等の細い線を束ねて電源ケーブルとするのは、キャパシタに電気を溜める能力が低くお勧めいたしません。

例３：BATTERY-Point２-AMP/PROCESSOR （アンプ内蔵）接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



AMP/PROCESSOR（AMP内臓モデル）

最適なケーブルの選び方とは？

①バッテリーからPoint2までは、ノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒４G等が理想です（例：AT-RX04）

キャパシタに早く電気をためるには？
⇒太いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル

②Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

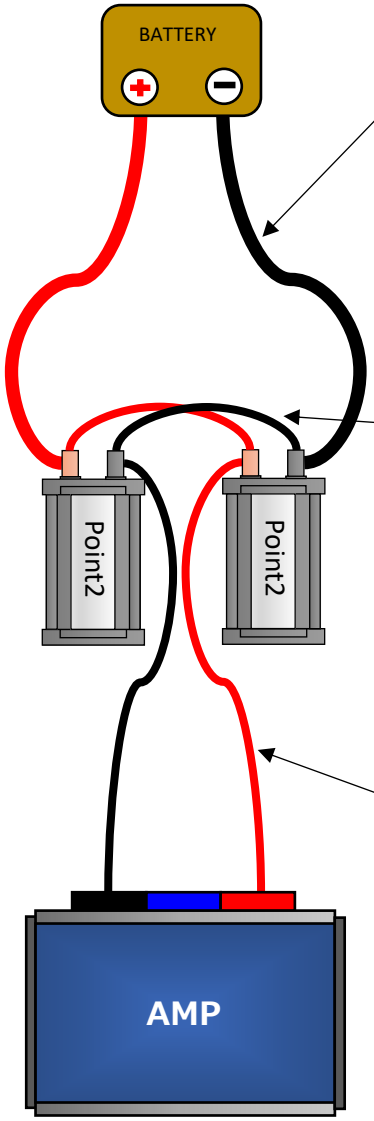
Point2は220ｋHzまでの電気を流すことが可能です
機材に周波数帯域の高い電気を流すには？
⇒細いケーブル
機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

MEMO

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。
※１６G等の細い線を束ねて電源ケーブルとするのは、キャパシタに電気を溜める能力が低くお勧めいたしません。

例４：BATTERY-Point２×２-AMP　接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なケーブルの選び方とは？

①バッテリーからPoint2までは、ノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒４G等が理想です（例：AT-RX04）

キャパシタに早く電気をためるには？
⇒太いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル

②Point2を複数個使用する場合には、電流量を流しやすく高域のインピーダンスが低くなる特性の、芯材が固く隙間のないケーブルを選ぶ
⇒４G又は８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

Point2は220ｋHzまでの電気を流すことが可能です
⇒芯材が固く締まったケーブルはより広い範囲に電気を流すことができ、Point2の性能を発揮します。

③Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

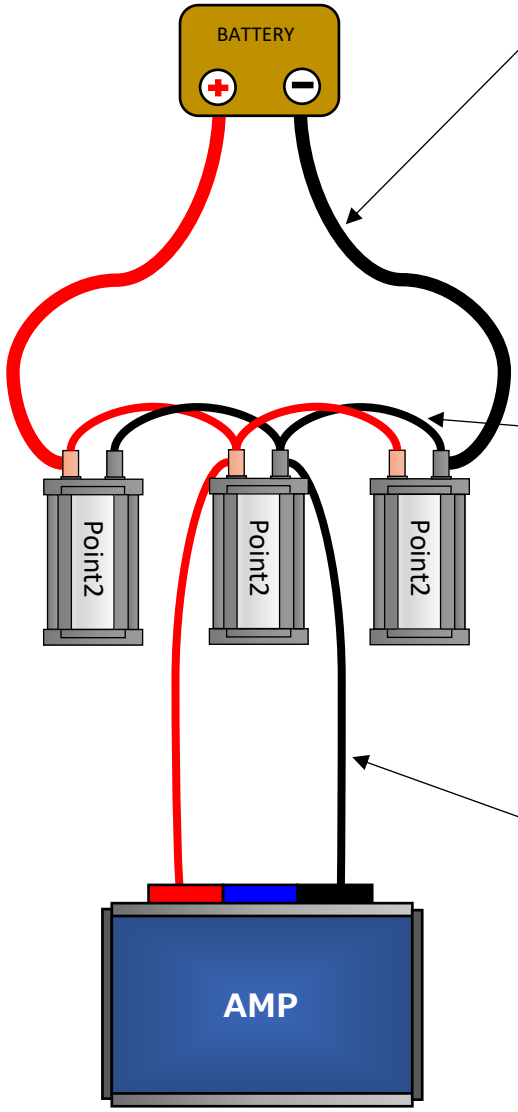
機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

MEMO

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。
※１６G等の細い線を束ねて電源ケーブルとするのは、キャパシタに電気を溜める能力が低くお勧めいたしません。

例５：BATTERY-Point２×３-AMP　接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なケーブルの選び方とは？

①バッテリーからPoint2までは、ノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒４G等が理想です（例：AT-RX04）

キャパシタに早く電気をためるには？
⇒太いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル

②Point2を複数個使用する場合には、電流量を流しやすく高域のインピーダンスが低くなる特性の、芯材が固く隙間のないケーブルを選ぶ
⇒４G又は８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

Point2は220ｋHzまでの電気を流すことが可能です
⇒芯材が固く締まったケーブルはより広い範囲に電気を流すことができ、Point2の性能を発揮します。

③Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

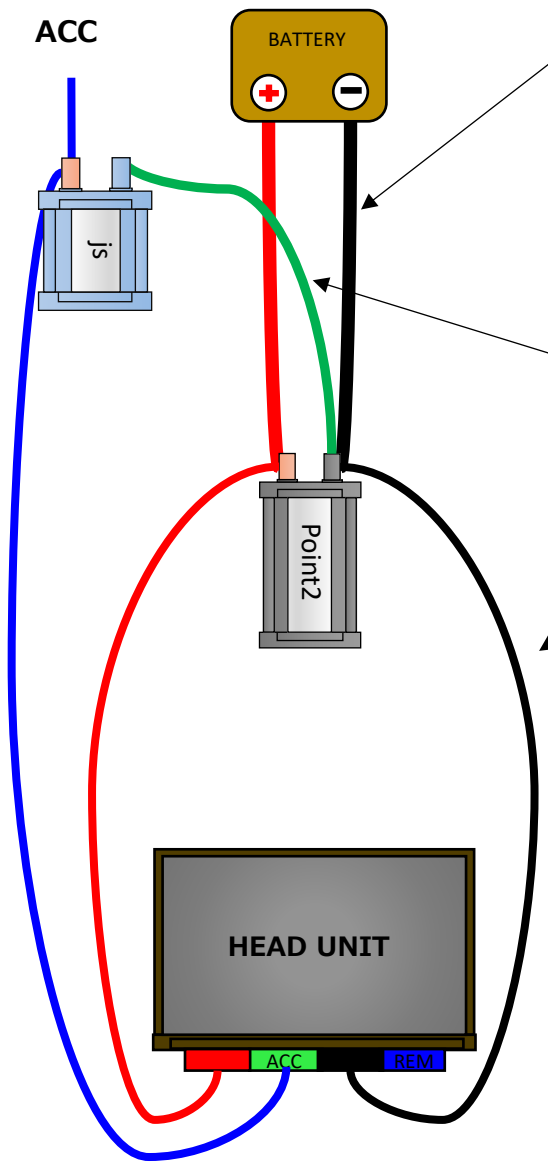
機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

MEMO

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。
※１６G等の細い線を束ねて電源ケーブルとするのは、キャパシタに電気を溜める能力が低くお勧めいたしません。

例６：junction stabilizer-（Point２×１）接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なケーブルの選び方とは？

①バッテリーからPoint2までは、ノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒8G等が理想です（例：AT-RX08）

キャパシタに早く電気をためるには？
⇒太いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル

②junction stabilizerのマイナス線は８G+16Gの2本をセットにして使用すると効果的である
⇒Point2がない場合はボディーアースとする

③Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒14Gが理想です　（例：HQP-14zs Power cable）

Point2は220ｋHzまでの電気を流すことが可能です
機材に周波数帯域の高い電気を流すには？
⇒細いケーブル
機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

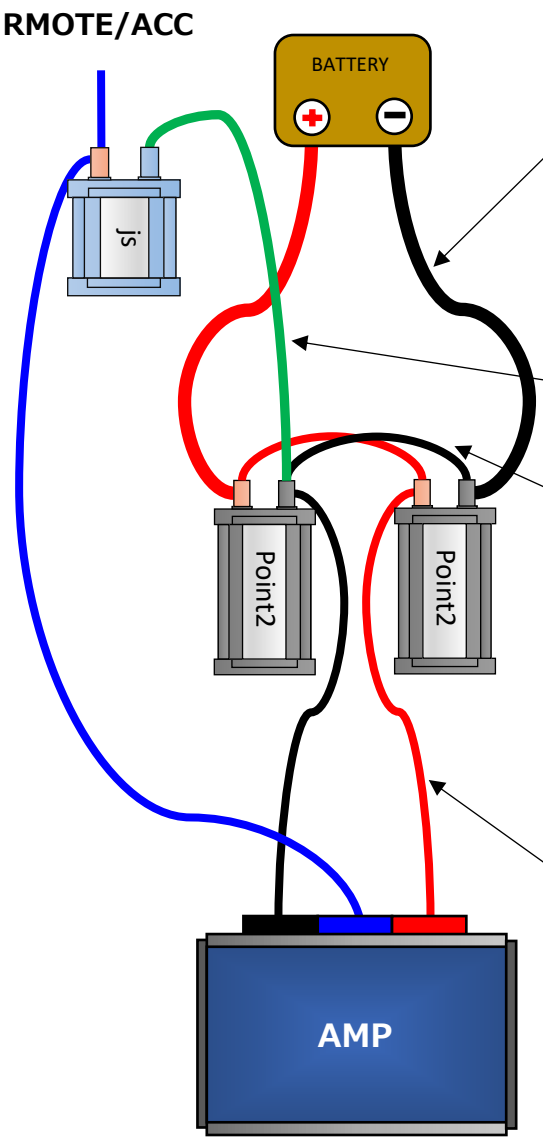
※HEAD UNITはAMPとは別に、バッテリーから直接電源を引くことをお勧めします
⇒ヒューズブロックで分配した場合、異なる発電周波数どうしで、電流が打ち消しあう
⇒機材が必要としている電流の周波数帯域は全て違う

MEMO

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。
※１６G等の細い線を束ねて電源ケーブルとするのは、キャパシタに電気を溜める能力が低くお勧めいたしません。

例７：junction stabilizer-（Point２×２）接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なケーブルの選び方とは？

①バッテリーからPoint2までは、ノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒４G等が理想です（例：AT-RX04）

キャパシタに早く電気をためるには？
⇒太いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル

②junction stabilizerのマイナス線は８G+16Gの2本をセットにして使用すると効果的である
⇒Point2がない場合はボディーアースとする

③Point2を複数個使用する場合には、電流量を流しやすく高域のインピーダンスが低くなる特性の、芯材が固く隙間のないケーブルを選ぶ
⇒４G又は８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

Point2は220ｋHzまでの電気を流すことが可能です
⇒芯材が固く締まったケーブルはより広い範囲に電気を流すことができ、Point2の性能を発揮します。

④Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

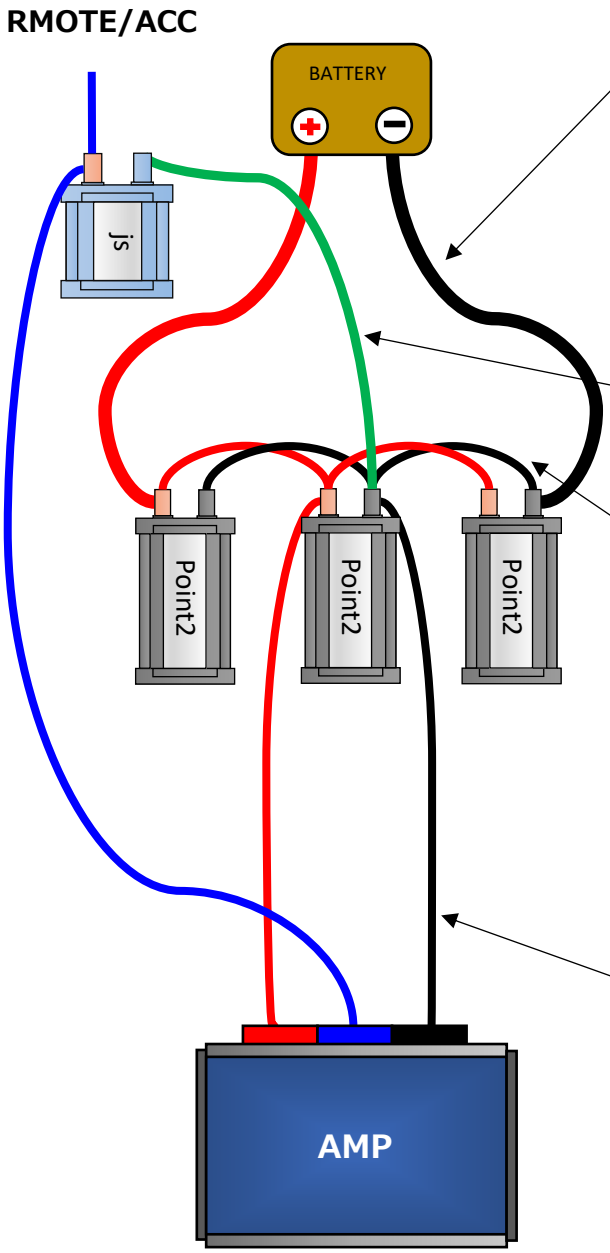
機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

MEMO

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。
※１６G等の細い線を束ねて電源ケーブルとするのは、キャパシタに電気を溜める能力が低くお勧めいたしません。

例８：junction stabilizer-（Point２×３）接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なケーブルの選び方とは？

①バッテリーからPoint2までは、ノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒４G等が理想です（例：（）

キャパシタに早く電気をためるには？
⇒太いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル

②junction stabilizerのマイナス線は８G+16Gの2本をセットにして使用すると効果的である
⇒Point2がない場合はボディーアースとする

③Point2を複数個使用する場合には、電流量を流しやすく高域のインピーダンスが低くなる特性の、芯材が固く隙間のないケーブルを選ぶ
⇒４G又は８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

Point2は220ｋHzまでの電気を流すことが可能です
⇒芯材が固く締まったケーブルはより広い範囲に電気を流すことができ、Point2の性能を発揮します。

④Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

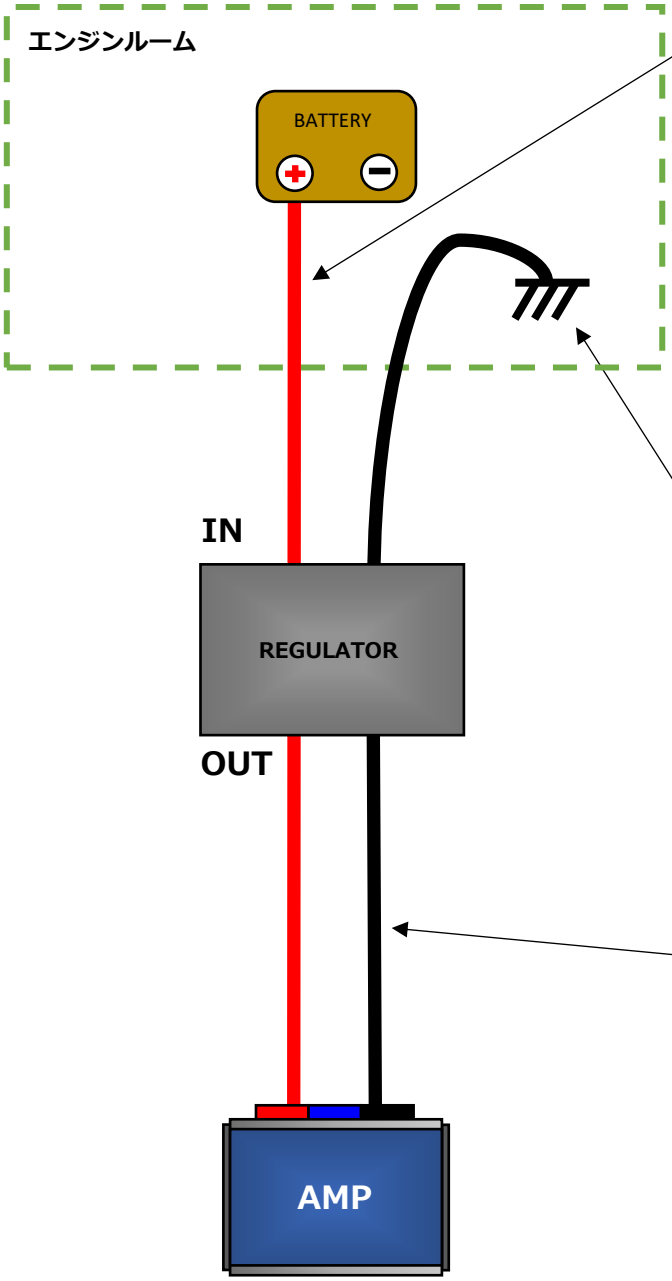
機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

MEMO

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。
※１６G等の細い線を束ねて電源ケーブルとするのは、キャパシタに電気を溜める能力が低くお勧めいたしません。

例９：レギュレータ　接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なレギュレータの接続方法とは？

①バッテリーからレギュレータまではノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒４G等が理想です（例：AT-RX04）

レギュレータの入力側からは、強いノイズが発生しているので、できるだけエンジンルーム側に対してノイズが流れないようにする

⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル
⇒太いケーブル

②レギュレータのノイズがバッテリーに直接入らないようにECU等と重ならないポイントへボディーアースする

バッテリーのマイナスターミナルに接続すると、充電がされにくい状態となるので、注意する

⇒バッテリーのボディーアース箇所に接続する
⇒ECUやヒュージブルリンクに直接関係しないアースポイントに接続する

③レギュレータから機材までは、ノイズが入りにくい特性のケーブルを選ぶ
⇒８Gが理想です（例：AT-RX08）

レギュレータのノイズが、機材に流れるとどうなる？

⇒ノイズがカットできない場合、機材のスイッチング電源の発電が安定しなくなるので注意する

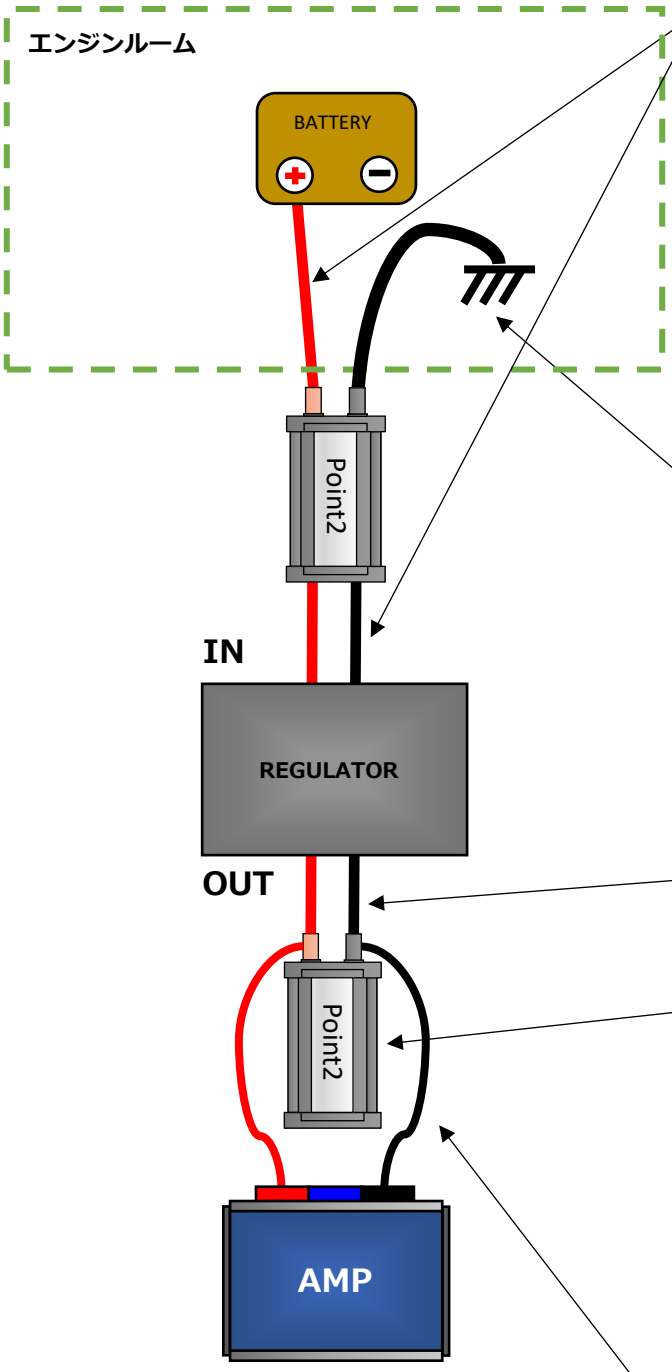
MEMO

※レギュレータは、内部の発電ノイズが入力側/出力側の両方に流れてしまうことを確認しています

※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません。

例10：レギュレータ＋Point２　接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



最適なレギュレータの接続方法とは？

①バッテリー/Point2/レギュレータの間はノイズの入りにくい太いケーブルを選ぶ
⇒４G等が理想です（例：AT-RX04）

レギュレータの入力側からは、強いノイズが発生しているので、できるだけエンジンルーム側に対してノイズが流れないようにする
⇒芯材が柔らかく隙間が多いケーブル
ノイズが入りにくいケーブルとは？
⇒太いケーブル

②レギュレータのノイズがバッテリーに直接入らないようにECU等と重ならないポイントへボディーアースする

バッテリーのマイナスターミナルに接続すると、充電がされにくい状態となりますので、注意してください
⇒バッテリーのボディーアース箇所に接続する
⇒ECU/ヒュージブルリンクに直接関係しないアースポイントに接続する

③レギュレータからPoint2までは、ノイズが入りにくい、キャパシタを早く満タンにできる太いケーブルにする
⇒4Gが理想です（例：AT-RX04）

④機材に合わせてPoint2を増やすと効果が高くなる

※レギュレータの出力が、IGがOFFの場合０Vになるタイプの場合には、Point2が空にならない為に、リレーを組む必要があります
※Point2は220kHzまでの電気を流すことが可能です

レギュレータのノイズの一部はPoint2が吸収しますが強力に取り除きたい場合は、Point2を複数装着する
⇒高額機材は質の良い電源を要求するので効果が高い

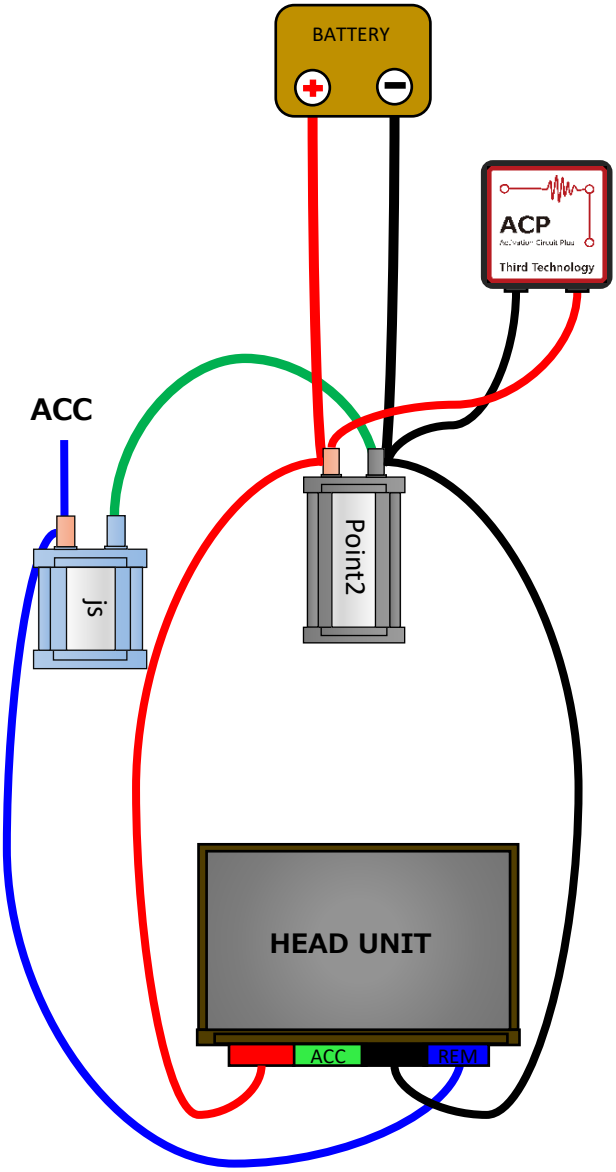
⑤Point2から機材までは、広い範囲でインピーダンスが低くなる特性のケーブルを選ぶ
⇒８Gが理想です（例：HQP-8zs Power cable）

機材の心臓となるスイッチング電源は高い周波数の電気が流れないと発電が安定しない
⇒芯材が固く隙間のない締まったケーブル

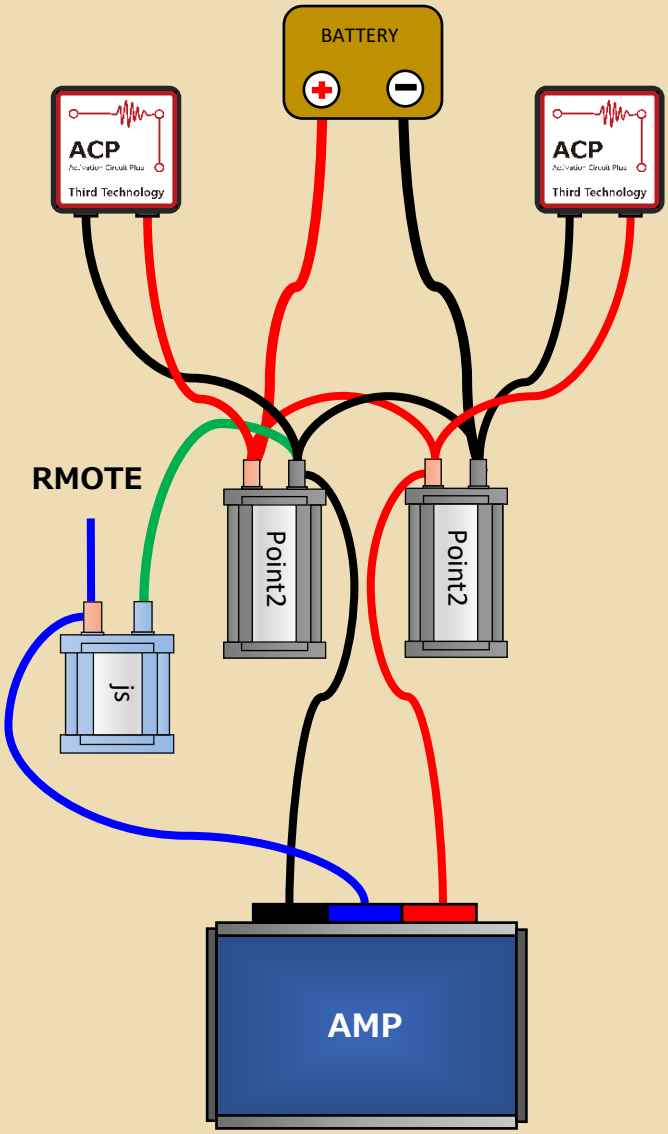
※レギュレータは、内部の発電ノイズが入力側/出力側の両方に流れてしまうことを確認しています
※ケーブルの例は、その箇所に適した理想的な線の構造のものを記載しました。
似ている構造のケーブルであれば、メーカーは問いません

例11：energyboxfeel ACP 接続図

Third Technology
for Car Audio & Electronics



ACPはPoint2/ASUKA専用品です。



※注意事項

- ACP装着直後は、コンデンサの活性化により音のバランス等が大きく崩れます。
- システムによりますが、オーディオがONの状態で60分以上経過してからの調整をお勧めします。
- 少し大音量で情報量の多い音楽を再生することで、エージングが早く終わることがあります。

※取り付け方法

- ACPのケーブルは自由な長さにカットしてプラスとマイナスの長さは揃えてください。
- キャパシタのプラスとマイナスに接続してください。
- キャパシタ1台に対して、ACPは1台まで取り付けることができます。